

熊本地震支援第21班活動報告書

標題の件につき下記の通りご報告いたします。

記

- ① 日時 5月8日(日)～9日(月)
- ② 参加者 杜若 佑馬、長友 由美、菓子野 三千代、木山 允
- ③ 支援先避難所 阿蘇熊本空港ホテル エミナース
〒861-2202 熊本県上益城郡益城町田原2071-1
TEL 096-286-111
- ④ 行程 ○=エミナースでの活動 ・ ●=巡回など、エミナース以外での活動

5月8日

- 7:10 宮崎出発(宮崎20班より依頼あり。カップ麺、紙コップ、水の要請)
- ※宮崎西IC～御船IC(えびのPAで休憩)
- 10:15 熊本県薬に到着。連絡事項の確認。
- 11:00 エミナースに到着
- ※エミナースにて引き継ぎ。
石鹸と消毒液の確認をするためトイレ巡回。
山西小学校(杜若・木山)、エミナース(長友・菓子野)2組に分かれて活動することを確認。
- 12:40 山西小組が移動開始。15分程度で移動完了。
- 13:30 山西小、日赤チーム到着。診察開始。
- 14:00 エミナース、日赤診療開始。
- 14:30 山西小、日赤チーム撤収(処方箋0枚、OTC0枚)
- ※15:00までの話だったが避難所の雰囲気も悪くなく、患者もいなかったため早めに撤収。また10日以降の日赤と薬剤師会の動きを主査の方が確認された。救護所がなくなっても、できれば巡回診療を行って、そこに薬剤師が同行してほしいとのこと。
- 15:00 愛知県JPAT、山西小到着。「こころの相談」を開始。
- 16:00 エミナース 日赤チーム撤収(処方箋10枚、OTC4件)
- 16:00 愛知県JPAT、撤収。
- ※薬剤師も1時間程度、避難所内を巡回し避難者と話をしていくが、問題なし。各々のかかりつけの病院、薬局が再開していることが要因。
- 16:20 山西小組、エミナースに戻る。
- 17:30 トイレ巡回(菓子野)
- ※消毒液を作る際の薬剤の個数を、清掃場所ごとに決めているが、保健師と行き違いがあり再度説明。
- 18:30 薬剤師班ミーティング。神奈川県薬は一旦ホテルに戻る。
- ※神奈川県薬が持つ熊本県薬のスケジュール表に、9日に来る宮崎22班はエミナースに入らず、益城総合体育館に行くことになっていることが判明。宮崎県薬に問い合わせが把握していないとのことで、熊本県薬に確認

するように依頼。結果、9日に来る宮崎22班まではエミナースに入り、10日以降は総合体育館に入るとのこと。

※エミナースは避難所としては閉鎖。救護室も撤収することを日薬が決定した旨を神奈川県薬より知らされる。

※9日のAMは、宮崎県薬1名（木山）、神奈川県薬1名（藤野）で地区全体ミーティングに参加後、西原中⇒河原小⇒山西小を巡回し、OTC対応を行うことを決定。またPMは宮崎22班から2名が日赤チームの巡回診療に同行し、西原中、河原小、山西小で、処方せん調剤を行うことが決定。

○24:00 おくすり相談2件

○24:00以降はon call

5月9日

○5:30 開局

○7:00 トイレ巡回

○7:30 エミナース内全体ミーティング（2名）

○8:25 神奈川県薬到着。

●8:30 西原町役場にて地区全体ミーティングに参加（木山）神奈川県薬から岩井、藤野が参加。

※日赤は西原保育園に設置してある救護所を11日に解体することを決定。その後は巡回診療に切り替えるとのこと。JPATが各避難所に入って、こころのケアを行うことを確認。

●8:50 薬剤師巡回 西原小

●9:45 薬剤師巡回 河原小

●10:30 薬剤師巡回 山西小

※巡回はOTCの補充、避難所内に薬剤師が回ることをアナウンスし、個別に話を聞いて回る。

○11:30 巡回組 エミナースに戻る。

○11:35 宮崎22班到着。

※宮崎22班は熊本県薬に到着時に宮崎県薬に到着報告をしていなかった。時間の把握のため徹底する必要あり。

○11:40 エミナース組、巡回組に分かれて引き継ぎ。

○12:15 北海道県薬の1名がエミナースに到着。

※北海道県薬はこちらの行動計画に入っていなかったため、急遽巡回組とともに回るよう組み込む。

○12:40 宮崎21班 エミナースから撤収。山西小に同行し、現場で引き継ぐ。

⑤ エミナース状況

避難者の数はかなり減ってきているとのこと。それでも駐車場内には多くの車があった。日中は仕事や復旧のためなど、外出する人が多くいた。またホテルの温泉が利用可能になっており、400円で入浴が可能。支援物資も十分にあり、食料、水に困ることはない様子だった。一般のボランティアの人たちが少なくなっているようだが、役所の人や保健師さんなどは以前より多くおられた。

かなり落ち着いていきているように見えるが、救護所内での情報の整理には時間を要する上に、数時間前の情報は更新されて変わっているなど、かなり流動的な状態だった。一因には「救護所を閉鎖する」、「巡回診療はつづきたい」など、大きく環境が変化する時期にあたったためと思われる。

⑥ 他の避難所状況（山西、河原、西原）

どの避難所も落ち着いた雰囲気を取り戻している。スタッフの混乱もなく、運営もスムーズに感じた。救護所についても保健師や看護師が常駐しているようで、現場の状況把握に苦労はなかった。またそれぞれで防犯のため受付を設けて、所属や見知らぬひとの侵入を防ぐように受付を設けていた。

OTC は一通りそろっており、処方箋薬はエミナースから持参するもので対応可。リストはその都度更新して医師団に渡すようにした。

支援する側に疲労があるようで、ボランティアの一人が体調不良で倒れ救急車で運ばれたり、不眠や高血圧で限界に近いという避難所責任者の方もおられた。これを踏まえて JPAT が「支援側の支援を」と各避難所にケアにまわるとのこと。

⑦ 全体

近隣またはかかりつけの病院・薬局が相当数再開してきていることから受診や薬の相談というものは減ってきている様子。医師側も急性期でないものは地域の医療に戻すよう対応している。

今回は 2 回目の派遣でしたが、状況はかなり良くなってきていると感じました。ただ、家が倒壊してしまった方や、知人を亡くされた方などはまだまだ時間がかかります。引き続きケアが必要と感じました。

我々が派遣されたそれぞれの救護所の環境も良く、先生方の努力もあって、インフルエンザや胃腸炎などは最小に留められているように思います。

最後になりますが、日赤の Dr から「24 時間対応や医師が居なくても救護所に残ってくれているなど、今回薬剤師さんたちはすごく頑張ってくれている」「薬剤師がいると非常に助かるし、巡回にもできるだけ同行してもらいたい」などうれしい言葉をいただきました。